

# 複式僕チュートリアル



バージョン 11.6

---

---

概要.....	3
フォルダについて.....	6
開始記入 .....	8
取引データの入力 .....	11
勘定科目 .....	13
仕訳辞書の作成.....	16
摘要辞書の作成.....	18
出力帳票類.....	19
決算処理 .....	22
繰越処理 .....	28
財務分析 .....	32
キャッシュフロー .....	38
取引データの取り込み.....	41
TIPS .....	43
所得税に関する Web サイトへのリンク .....	48

---

# 概要

このアプリケーションは、財務会計のデータを複式簿記の形体で電子データとして保存し、保存された電子データを基にして、各種の集計結果を表示するアプリケーションプログラムです。

## 金額の範囲

1 回の取引で取り扱うことのできる金額は、2,147,483,647円から -2,147,483,648円までの範囲です。

各種帳簿で集計される金額の範囲は、9,223,372,036,854,775,807円から -9,223,372,036,854,775,808 円までの範囲です。

## 仕訳数

上限は不定です。2,147,483,647(16 進数で 0x7f) まで入力できますが表示するときの制限により、おおむね  $2,147,483,647/200 \approx 10,000,000$  が限度になると思います。仕訳数が大きくなると実用的な処理速度が得られなくなるので、繰り越し処理をすることをお奨めします。

伝票番号はありません。

## 消費税

消費税は、消費税自動計算を選択した場合には消費税に関する科目へ自動的に仕訳されます。

## 日付

日付の入力は、西暦です。必ず基本ラテン文字(半角文字)で入力して下さい。

■ キーボードから数字や区切り記号を入力します。

年あるいは月、日などを省略して入力できます。例えばコンピュータの日付が1991年8月15日のときに "14" を入力すると "1991-08-14" という日付けが設定されます。

---

"73" あるいは "703" あるいは "7/3" を入力すると "1991-07-03" という日付けが設定されます。

## 科目名

このアプリケーションは、勘定科目や補助科目ごとの集計を科目ごとに付けられた文字を基にして集計します。

科目名を入力するコンボボックスに示された文字列を、仕訳にそのまま記録します。

科目ごとにつけられたコード番号は一切必要としません。

従って、「現金」という科目で仕訳された金額と「現金・小切手」という科目で仕訳された金額とは最後まで同じ一つの科目として集計されることはありません。紛らわしい名称の使用を防ぐためと、キーボードからの名称入力を簡単にするために科目名を登録することをお勧めします。

① 勘定科目や補助科目の名称が登録されていない場合はキーボードからコンボボックスに科目名を入力します。科目名を入力するコンボボックスに示された文字列が登録されていない場合は、その都度警告パネルが表示されます。

② その警告パネル内の「保存」ボタンをクリックします。科目名が登録されコンボボックスのリスト内から使用できるようになります。

■ また、科目名を一括して登録することもできます。

科目名の最初の方の文字がアルファベットや半角数字で構成されている場合は、最初の方の文字が一致した科目名を入力補完します。どうしてもコード番号を使いたいとか、科目名の最初の方にアルファベットが混じってもかまわないとか、キーボードからどうしても入力したいという方は、この機能を利用することができます。

## 仕訳辞書

---

最上部のツールバーの中にある「仕訳辞書へ登録」ボタンをクリックすることにより、そのときの「借方」側の勘定科目・補助科目と「貸方」側の勘定科目・補助科目など仕訳に必要な設定が仕訳辞書へ保存され再利用することが可能になります。また、仕訳辞書を一括して登録することもできます。

## 摘要

摘要欄の「登録」ボタンをクリックすることにより、そのときの「借方」側の勘定科目・補助科目と「貸方」側の勘定科目・補助科目など仕訳に必要な設定が総て「摘要」欄の文字列とともに保存され再利用することが可能になります。また、摘要辞書を一括して登録することもできます。

## アンドゥ

「メインメニュー」「編集」「... の取り消し」と「... のやり直し」という機能が使えます。一仕訳単位での取り消しとやり直しになります。

## 仕訳の編集機能

- ① 「仕訳帳」または「元帳」を表示した状態から、ウインドウの最上部のツールバーの中にある「編集モード」ボタンをクリックして編集モードに切り替えます。
- ② 編集を必要とする仕訳をマウスクリックすると編集画面が表示されます。
- ③ 編集画面の中で、編集する箇所のポップアップボタンを使って編集するかまたはテキスト欄をマウスでダブルクリックして編集します。ポップアップボタンの中で空文字の項目がありますが、これは繰越用の仕訳に使用するものです。通常の仕訳には使用しないものです。
- ④ 編集を終えたら「記帳」をクリックします。

負の金額は入力できませんので、借方側と貸方側の科目を入れ替えることによって対応して下さい。「記帳」をクリックして編集を終えると、アンドゥ機能は使えなくなります。また変更内容によっては編集画面が消え去ることもあります。

---

# フォルダについて

フォルダーを開く:

- 記帳・検索の対象とするフォルダーを「開く」か、またはフォルダーアイコンをダブルクリックして、このアプリケーションを起動したとき iCloudまたはディスクから取引データを読み込んでメモリ上に過去の総ての取引データを記憶させます。
- Finder からアプリケーションアイコンがクリックされて、このアプリケーションが起動されたとき 前回読み込んだり編集したりしたフォルダーの読み込みが再開される場合と、フォルダーの選択ダイアログが表示される場合の二通りあります。フォルダーの選択ダイアログから「新規書類」を選択した場合には「名称未設定」というフォルダ名を記帳・検索の対象として動作します。このときデータは空からスタートです。
- Finder から.accbという拡張子のついたフォルダアイコンがクリックされて、このアプリケーションが起動されたとき そのフォルダを記帳・検索の対象として動作します。
- あるいは、Finderから複数の.accbフォルダを選択した状態からこのアプリケーションを起動する方法もあります。
- メインメニュー「ファイル」「開く ...」コマンドを実行することによって、他のフォルダを記帳・検索の対象として追加することは可能です。

他の仕訳帳を参照して年度別の比較表や部門別の一覧表等を作成するような高度な機能はこのアプリケーションには一切ありません。取引データを「記帳」したときメインウィンドウに「編集済み」と表示されればメモリ上にある取引データがディスクあるいはiCloudにオートセーブされています。

---

メインメニュー「ファイル」「保存」は記帳の対象としているフォルダーのバージョンを保存させる意味を持ちます。

このアプリケーションは取引データの保存と読み出しに.accbという拡張子のついたフォルダーを使用します。

ひとつの.accbフォルダには一冊の仕訳帳データと入力補助のための辞書ファイルが格納されています。

ひとつのフォルダーがひとつの会計単位になります。

フォルダーへオートセーブするには:

- 取引データを「記帳」したり、勘定科目・仕訳辞書・摘要辞書・財務分析科目を編集して「オートセーブ」したときにフォルダーへ変更内容がオートセーブされます。
- 取引データの入力中に新たな勘定科目または新たな仕訳辞書項目または新たな摘要辞書項目を登録したときにフォルダーへオートセーブされます。  
.accbという拡張子のついたフォルダが iCloud 上に新規作成されるか、既存のフォルダー内の該当データが更新されオートセーブされます。フォルダ名の末尾に.accbという拡張子が表示されない場合もあります。

フォルダーのバージョンを保存するには:

- メインメニュー「ファイル」「保存」コマンドを実行します。

フォルダーをコピーするには:

- 「Finder」からマウストラッグまたは「ターミナル」からコマンドを使うなどの方法でコピーします。  
データのバックアップを他の媒体にとるときは、この.accbフォルダごと他の媒体にコピーするだけでバックアップをとることができます。またバージョン管理の機能により、編集前のバージョンに戻すこともできます。

- このアプリケーションからではメインメニュー「ファイル」「複製」コマンドを使います。複製したものを「保存」すればディスクまたは iCloud に保存されます。

年度別あるいは部門別の仕訳帳を造りたい場合には、それぞれ別の.accbフォルダを作成します。

## 開始記入



### 開始記入

各事業年度の初めに前期より繰り越された残高を各勘定科目に新たに記入することです。

この場合、残高とは資産・負債・資本の实在勘定の残高のことで、損益に属する勘定は各事業年度の発生額の記録であり、实在額を示すものではないのでその残高は引き継がれません。

つまり開始記入とは、前期末の貸借対照表の残高をそのまま繰越として記帳(入力)するということになります。

このアプリケーションの場合は、勘定科目グループ「流動資産」から「純資産の部」までの資産勘定に属するグループが開始記入に該当することになります。相手科目を設定しないで記帳することになりますので、取引データ入力画面の最上部のツールバーの中にある「開始残高記帳モード」をクリックします。例に挙げて説明します。

借方側				金額
借方		流動資産	現金	1,200,000
借方		流動資産	預金	500,000



借方側				金額
借方		流動資産	売掛金	200,000
借方		流動資産	商品	300,000
借方		固定資産	建物	1,000,000
借方		固定資産	土地	800,000
貸方		流動負債	買掛金	200,000
貸方		流動負債	短期借入金	800,000
貸方		流動負債	納税充当金	500,000
貸方		純資産の部	資本金	2,000,000
貸方		純資産の部	未処分利益	500,000

- ① 相手科目を設定しないで記帳することになりますので、取引データ入力画面の最上部のツールバーの中にある「開始残高記帳モード」をクリックします。
- ② 全部入力し終わったら、取引データ入力画面の最上部のツールバーの中にある「開始残高記帳モード」をクリックして通常モードに戻します。
- ③ 貸借対照表と損益計算書を出力させます。このとき、それぞれ末尾に表示されている「当期暫定利益」が等しければ、正しく入力されたものとして良いでしょう。

### 事業年度途中から引き継ぐ場合

すでに期中になり当期の取引が発生し、その数値を引き継ぐ場合について説明します。この場合、開始記入と違い資産勘定だけでなく、損益勘定の残高も記帳(入力)する必要があります。

---

従って、「最新(月次)の試算表」の数字をそのまま開始記入と同じように、相手(原因)科目を入力せずに記帳します。

開始記入との違いは、次のとおりです。

- 開始記入が、資産勘定(貸借対照表)のみの繰越であるのに対し、損益勘定も含めた総ての勘定科目の金額を引き継ぐ。
- ① 全ての資産及び負債の勘定科目の合計を算出します。
  - ② 開始入力と同じように相手科目(原因)を設定しないで金額の入力をします。
  - ③ 純資産に属する勘定科目以外の金額を総て入力したら、貸借対照表を出力します。このときの「当期暫定利益」が純資産の総額です。通常は資本金です。
  - ④ 再び、その金額を資本金として入力します。
  - ⑤ もう一度貸借対照表を出力します。

「当期暫定利益」を見て、0であれば純資産の算出と開始入力が同時に終了したことになります。

- 開始記入時の貸借対照表が貸借バランスがとれているのに対し、普通は期の途中の貸借対照表のみ又は損益計算書のみ貸借バランスがくずれている。
- もちろん試算表では貸借一致している。

## 創業後間もなくで財務諸表が整備されていない場合について

### 資本金の算出

損益取引がまだ発生していない場合、下記を参照に資本を決定します。

借方	貸方
資産	負債
	当期暫定利益→資本

# 取引データの入力

右の図は取引データの入力画面です (70% 縮小)。最上部は前回入力された仕訳を表示しています。貸方側の勘定科目名を入力するコンボボックスは、マウスクリックされて既に登録された名称を表示している状態です。金額欄は消費税計算を自動実行している状態です。

「記帳」ボタンがクリックされると、

借方側		金額	貸方側		摘要
借方	資産勘定 流動資産 売掛金	609	貸方	資産勘定 流動負債 仮受消費税	掛けによる売上
借方	資産勘定 流動資産 売掛金	12191	貸方	損益勘定 売上高 売上(収入)金額	掛けによる売上



という仕訳が記帳されます。

画面左側が、借方の勘定科目で金額が負のとき、または貸方で金額が正のとき、仕訳の上では画面左側の科目と右側の科目を入れ替えて記帳します。

金額を負の数で設定しなければならない場合もあります。例えば、現金で借入金を返済したような場合です。画面左側の科目を「借入金」とし右側を「現金」と

---

したとき、金額には返済した金額の負の数を入力しなければなりません。このような場合にも仕訳には、下記のように金額が正の数で記帳されます。

借方側		金額	貸方側		摘要
貸方	資産勘定  借入金 流動負債	23500	借方	資産勘定  現金 流動資産	借入金の 返済

## 「記帳」

はディスクに取引データをオートセーブすることを意味します。

## 「保存 ...」

はディスク上にあるフォルダーのバージョンを確定させることを意味します。

## 「開く」

記帳・検索の対象とするフォルダーを「開く」か、またはフォルダーアイコンをダブルクリックして、このアプリケーションを起動したときは、ディスクから取引データを読み込んでメモリ上に過去の総ての取引データを記憶させます。

「記帳」するごとに「保存」する必要はありません。

同一勘定科目で金額あるいは日付が異なる大量の仕訳を入力するときは、タブキーを使用して入力フィールドを移動させると、入力を能率良くすることができます。「記帳」するときに、「コマンドキー」+「=」を使用すればマウスを使用しなくても記帳ができます。

# 勘定科目

勘定科目グループ数は13 グループです。このグループ数と名称は変更できません。

大分類		借方側勘定科目グループ		貸方側勘定項目グループ
資産勘定		流動資産		流動負債
		固定資産		固定負債
		繰延資産		純資産の部
損益勘定		売上原価		売上高
		販売費一般管理費		予備
		営業外費用		営業外収益
		特別損失		特別損失

「予備」というグループがありますが、このグループ名を使った仕訳を使用しないで下さい。集計の対象外になったりならなかったり、このアプリケーションは予測できない動作になります。各勘定グループに属する勘定科目の名称を取引データ入力時に設定します。

名称は任意に設定できます。但し、期の途中で名称を変更したり、同一の性格のものに複数の名称を与えることを避けた方が良いです。このアプリケーションで取り扱う勘定科目は文字列によって分類集計します。

例えば「現金」と「現金・小切手」という名称で取引データをそれぞれ記録すると元帳・貸借対照表においてそれぞれ別項目として集計されてしまいます。

## 自動的に設定される勘定科目

以下は消費税計算が選択された場合に自動的に仕訳されます。

- 借方/資産勘定/流動資産/仮払消費税
- 貸方/資産勘定/流動負債/仮受消費税

---

## 勘定科目・補助科目の名称を辞書に登録

勘定科目の名称を登録することは、必須事項ではありません。

勘定科目の名称を登録しておくと、取引データの記録・各種帳簿の出力が簡単になります。

登録の仕方には2通りの方法があります。

- 「メインメニュー」「ツール」「勘定科目の作成 …」 コマンドを実行する。  
又、同じコマンドから補助科目の名称を作成することができます。
- 取引データの作成中でも、勘定科目・補助科目の名称を登録することができます。

名称の重複は検証しません。同一勘定科目グループの中の同一名称科目は一つの科目として扱われます。

.accb フォルダ内に辞書ファイルが格納されますので、作成した辞書はそのフォルダで作業しているときだけ使用することができます。

### 「勘定科目の作成 …」 コマンド

上記のコマンドを実行すると、勘定科目名を一括して登録することができます。

- ① メインメニュー「ツール」「勘定科目の作成 …」 コマンドを実行します。勘定科目の作成がマウス操作によって簡単にできるアウトラインビューを含むウィンドウが表示されます。
- ② アウトラインビューの操作は他のアプリケーションにおけるアウトラインビュー操作法と殆ど同じです。

▼と▶との切り替えは該当箇所をマウスクリックします。

### 勘定科目の追加

- ① 「▼勘定科目グループ」または「▶勘定科目」と表示されている欄をマウスクリックします。

- 
- ② ウィンドウ上部の「... 追加」をクリックすると設定する文字列がキーボードから入力できるようになります。

## 補助科目の追加

- ① 「▼勘定科目」または「補助科目」と表示されている欄をマウスクリックします。
- ② ウィンドウ上部の「... 追加」をクリックすると設定する文字列がキーボードから入力できるようになります。

## 項目の削除

- ① 削除する項目をマウスクリックします。
- ② ウィンドウ上部の「削除」をクリックします。

## テンプレート使用

- 「テンプレート使用」をクリックすると一般的な科目名が羅列された勘定科目が設定されます。

青色申告用とか法人用とかに特化した物ではなく、ただ名前を並べてあるだけで  
すので不要な物を削除するなどして使用して下さい。

---

# 仕訳辞書の作成

よく用いられる仕訳項目を仕訳辞書へ登録しておく と、仕訳の設定を楽に確実に  
行えるようになります。

取引データ入力画面の「仕訳辞書へ登録」 ボタンをクリックするか、またはメイ  
ンメニュー「ツール」「仕訳辞書の作成」 コマンドを使用して仕訳辞書を作成し  
ます。

## 「仕訳辞書へ登録」 ボタン

- ① 取引データの入力画面の最上段のツールバーの中の「仕訳辞書へ登録」 ボタ  
ン をクリックします。

設定内容の重複がチェックされます。

仕訳辞書の見出しをつけます。

- ② 「OK」 ボタンをクリックします。

見出しの重複がチェックされます。 取引データ入力画面で設定されている「借  
方」側の勘定科目・補助科目と「貸方」 側の勘定科目・補助科目など仕訳に必  
要な設定が仕訳辞書へ保存され再利用する ことが可能になります。

日付・金額・摘要などは登録されません。

## 「仕訳辞書の作成」 コマンド

- ① 「ツール」「仕訳辞書の作成」 コマンドを使用します。
- ② 「追加」 により新規の仕訳項目を追加します。
- ③ 「見出し」 欄をマウスでダブルクリックして、見出しとして使用する文字列  
を入力します。
- ④ 「借方」・「グループ」・「貸方」・「グループ」 の欄に取引データ入力  
の際の左右の名称をポップアップボタンを使って選択します。



---

例えば左側に貸方に属する科目を指定する場合は、「借方」の欄に「貸方」という項目及び「グループ」の欄に「売上高」という項目を選択します。

「勘定科目」・「補助科目」のそれぞれに文字列が与えられた場合には、それぞれ自動設定されます。

自動的に設定させない「勘定科目」・「補助科目」には文字列を入力しないでください。

「借方」・「グループ」・「貸方」・「グループ」の欄に適切な文字列が与えられなかった場合は仕訳の自動設定は行なわれません。

## 仕訳辞書の使用法

① 取引データ入力画面の最上段のツールバーの中にある「仕訳辞書ビュー」をクリックします。仕訳辞書検索・選択用のビューが開きます。

② ビューの中で該当する行をマウスクリックします。

辞書に登録された科目設定がされます。

矢印キーを使用して設定することもできます。

ビューが開いているときに、「仕訳辞書ビュー」をクリックするとビューが閉じられます。

---

## 摘要辞書の作成

取引データ入力画面の「摘要」欄の中の「登録」ボタンをクリックするか、またはメインメニュー「ツール」「摘要辞書の作成」コマンドを使用して摘要辞書を作成します。

■ 摘要欄の「登録」ボタンをクリックします。

そのときの「借方」側の勘定科目・補助科目と「貸方」側の勘定科目・補助科目など仕訳に必要な設定が総て「摘要」欄の文字列とともに保存され再利用することが可能になります。

摘要辞書を一括して登録するには:

- ① メインメニュー「ツール」「摘要辞書の作成」コマンドを使用します。
- ② 「追加」により新規の摘要項目を追加します。
- ③ 「摘要」欄をマウスでダブルクリックして、摘要として使用する文字列を入力します。

「借方」・「グループ」・「貸方」・「グループ」の欄に取引データ入力の際の左右の名称をポップアップボタンを使って選択します。

例えば左側に貸方に属する科目を指定する場合は、「借方」の欄に「貸方」という項目及び「グループ」の欄に「売上高」という項目を選択します。

「勘定科目」・「補助科目」のそれぞれに文字列が与えられた場合には、それぞれ自動設定されます。

自動的に設定させない「勘定科目」・「補助科目」には文字列を入力しないでおきます。

「借方」・「グループ」・「貸方」・「グループ」の欄に適切な文字列が与えられなかった場合は仕訳の自動設定は行なわれません。

テンプレートを使用して登録するには:

- 
- ① メインメニュー「ツール」「摘要辞書の作成」コマンドを使用します。
  - ② 「テンプレートを使用」をクリックします。

あらかじめ用意された標準的な「摘要」文字列と仕訳法が表示されます。

## 出力帳票類

### 集計される金額の範囲

各種帳票で集計される金額の範囲は、9,223,372,036,854,775,807円から  
-9,223,372,036,854,775,808 円までの範囲です。

消費税計算を指定して入力した仕訳は「税抜き」金額で表示されます。（「税込」  
で表示させることも必要であると思われるが現在のバージョンでは未対応）

### 集計する日付の範囲指定

期間指定が可能な帳表では集計する期間を指定できます。

- ① それぞれのウインドウが最初に表示されたときの開始と終了の日付の欄は、  
空欄になっています。  
空欄はそれぞれ遠い過去の西暦201年1月1日と、遠い未来の西暦4001年1月2  
日とを表します。従って空欄のままの状態では約3800年間となります。
- ② キーボードから日付の省略文字を入力します。日付の入力法は「取引データ  
の入力」に説明してあります。

遠い過去の日付と遠い未来の日付の間が、このアプリケーションで処理すること  
のできる日付の範囲となります。

### 表示する日付と通貨記号の書式

---

各種帳票で表示される日付の書式と通貨記号は、macOS に標準で備わっている「システム環境設定」アプリケーションを使って設定された書式に準じます。ただし、月次推移の「月」は西暦表示に固定されています。

- 日付については「システム環境設定」「言語環境」「書式」「日付」の最上段に示された書式に準じます。  
より詳細な設定をするときは「カスタマイズ ...」ボタンをクリックし「表示:」「すべて」を選択して設定します。
- 通貨記号は「システム環境設定」「言語環境」「書式」「数値」「通貨」で指定された通貨に基づく記号が使用されます。マイナス記号については「△」を独自に設定していますので、変更できません。

## 表示品質

手書きの帳簿を真似た形式の出力はしません。白紙へプリントアウトして判別できる程度の形式で出力します。グラフィックを使用しないリッチテキストで出力します。

- ポップアップボタンを使用して出力形式を選択します。アンダーライン無し・アンダーライン有り・表の 3 通りを選択できます。アンダーライン・罫線ともに画像データではありません。
- メインメニュー「ファイル」「ページ設定 ...」から用紙サイズを調整します。画面の文字が小さくて読み取りにくいとか、A4 プロポーショナル以外の用紙にプリントするときは、用紙サイズを調整します。用紙サイズの範囲内で文字の大きさを「フォント」の「-」「+」で調整することができます。出力の幅は、デフォルトで A4 プロポーショナルの用紙サイズに収まるように出力します。

- 
- メインメニュー「ツール」「フォント」、[「フォントパネルを表示」](#) [コマン](#)  
[ド](#)を使って変更します。

デフォルトは「ヒラギノ明朝 ProN」です。

手書きの帳簿を真似た形式の出力はしませんので、気に入らない方はマウ  
スドラッグなどで選択しコピーして、他のアプリケーションにペーストし  
て整形することをお勧めします。

出力された文字列は、マウスドラッグなどで選択しコピーして、他のアプ  
リケーションにペーストできます。各項目はタブまたは罫線で区切られま  
す。

## 帳票の種類

仕訳帳	取引結果を借方、貸方に仕訳し、日付順に出力する。 期間指定可。
元帳	各勘定科目毎又は補助科目毎に分類され出力される。 期間指定可。
残高試算表	各勘定科目の期首の繰越額と借方、貸方それぞれの累計金 額と期末の残高とを表示します。期間指定可。
損益計算書	企業の損益状態を表示します。 期間指定可。
貸借対照表	現在時点の企業の財産状態を表示します。
キャッシュフロ ー計算書	現金及び現金同等物の流れを数値で間接法により表示しま す。期間指定可。
日次残高推移表	勘定科目グループ・勘定科目・補助科目の日次残高を一覧 表示します。期間指定可。
月次推移	勘定科目グループ・勘定科目・補助科目の月次推移を表示 します。

---

## 財務分析

財務分析のための各種指標を表示します。  
期間指定可。

集計結果を見るには：

- メインメニュー「帳票」をマウスクリックし、集計させる帳票の種類をマウスで選択します。
- 帳票によっては、科目名を設定する必要があります。
- 必要に応じて開始日付と終了日付をキーボードから入力します。
- 損益計算書と財務分析とにおいて開始日付を入力した場合は、指定した日付までの繰越額は集計結果に合算されません。
- 必要に応じて表示品質を指定します。
- 何も設定せずに集計結果を見るには「画面表示」ボタンをクリックするか、または日付の欄にマウスを移動させてリターンキーを押します。
- プリンタへの出力は「プリント」をクリックします。

## 決算処理

決算処理とは、事業年度の終わりにあたり、諸帳簿の締切を行ない損益計算書と貸借対照表を作成することです。このアプリケーションの場合、資産勘定及び損益勘定それぞれのアンバランスを、「当期暫定利益」という名称で表示します。このアプリケーションではそのアンバランスを、自動的に解消することはありません。決算処理とは、そのアンバランスを解消するための仕訳入力をしてバランスを取らせることにほかなりません。

通常の決算処理は次のようなことを行います。

1. 商品ごとの棚卸と評価

2. 固定資産の原価償却
3. 費用収益の繰越、見越計算
4. 各引当金の計算と処理
5. 特殊売買における期末処理
6. 所得税、法人税の処理

1.から5.までは日常の取引として処理をしておきます。

6.の所得税、法人税の処理を行なうことで利益確定をして、貸借のバランスをとります。

概念を示すと以下ようになります。

	貸借対照表			損益計算書
期首	(借方)	(貸方)		損益勘定は総て0 期首資産状態
～	資産	負債・純資産	@	
期末(決算処理前)	バランス状態			

期首 ～ 期末(決算処理前)	1会計期間(1年) 上記・下記の@部分は期末未処分利益額(繰越利益) 各種取引の発生により貸借対照表・損益計算書それぞれの 貸借バランスがくずれてくる。
----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

	貸借対照表				損益計算書		
	(借方)	(貸方)			(借方)	(貸方)	
	資産	負債・純資産	@	#	費用	#	収益

期末(決算処理前) ～ 期末(決算処理後)	#は暫定当期利益 貸借対照表・損益計算書それぞれのアンバランス分が暫定利益。しかし貸借対照表・損益計算書全体で見るとバランスがとれていて暫定利益は相殺される。	決算処理前 期末資産損益状態
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	-------------------

	貸借対照表		損益計算書	
	(借方)	(貸方)	(借方)	(貸方)
期末(決算処理後) ～ 繰り越し処理		納税充当金		
		@	納税充当額	
		当期利益	当期利益	
	@+当期利益=当期末処分利益		決算処理後 資産損益状態	

開始入力時、資産勘定の貸借バランスがとれていたのが日常取引の発生により、残高試算表レベル(貸方科目全体、借方科目全体)では貸借バランスはとれていても、貸借対照表・損益計算書それぞれでは貸借に差額が生じてきます。(暫定利益=>借方、貸方それぞれ反対側に同額)

1年経過後、最終の(前ページ通常決算処理の1.から5.までの処理後)暫定利益を次のように配分して暫定利益を0とすることが決算処理となります。

貸借対照表(貸方)暫定利益=納税充当金(流動負債)+当期末処分利益(純資産の部)  
 損益計算書(借方)暫定利益=納税充当額(特別損失)+当期利益(特別損失)





## 法人の場合



利益の確定	
(借方)	(貸方)
	流動負債
	↓
暫定利益→	納税充当金
↑	当期末処分利益
納税充当額 当期利益	↑ 純資産の部 ← 特別損失

つまり、損益勘定のアンバランス(借方暫定利益)を納税充当額(特別損失)と当期利益(特別損失)に、資産勘定のアンバランス(貸方暫定利益)を納税充当金(流動負債)と当期末処分利益(純資産の部)にそれぞれ割り振ります。

この結果、当期暫定利益は0となり当期末の貸借対照表、損益計算書ができます。次のように仕訳をします。

借方側		金額	貸方側	
貸方	 納税充当金	当期暫定利益の金額の一部	借方	 納税充当額
	流動負債			特別損失
貸方	 当期末処分利益	当期暫定利益の金額の残り	借方	 当期利益
	純資産の部			特別損失

\*注:当期暫定利益=「当期暫定利益の金額の一部」+「当期暫定利益の金額の残り」

### 青色申告の場合

利益の確定	
(借方)	(貸方)
	流動負債 ↓
暫定利益→ ↑	青色申告特別控除前の所得金額
当期利益	↑ 資本 ← 特別損失

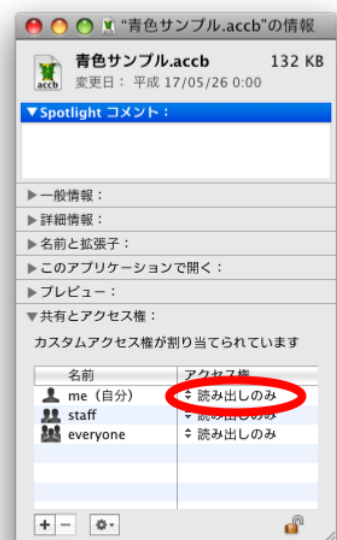
次のように仕訳をします。

借方側	金額	貸方側
貸方 純資産の部 青色申告特別控除前の所得金額	当期暫定利益の金額	借方 特別損失 当期利益

## その他

上の2つの仕訳例は一例としてあげただけです。他の仕訳法によって決算処理をしてもかまわないですし、決算処理をしなくてもかまわないです。プログラムの実行上には何の影響も与えません。

決算処理を終えたフォルダーあるいは繰り越し処理を終えたフォルダーについては、書き込み権限を外すことをお勧めします。



- ① Finder を使って該当のフォルダーアイコンを選

---

択します。

- ② 「ファイル」「情報を見る」コマンドを実行します。上図のダイアログが表示されます。
- ③ 「共有とアクセス権:」パネルが表示されていない場合は、開閉用三角ボタンをクリックして表示します。
- ④ カギのアイコンをクリックしてユーザ名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
- ⑤ 総てのユーザーについて「アクセス権」を「読み出しのみ」とします。これで書き込み権限を外すことができます。

# 繰越処理

繰り越す数字は資産勘定のみ、つまり「貸借対照表」だけです。

- ① メインメニュー「ツール」「繰越 ...」コマンドを実行する。資産勘定の残高と当期暫定利益の金額とを示すウィンドウが表示されます。当期暫定利益の金額が0になっていない場合には警告パネルが表示されます。
- ② 「次期を新規に作成」をクリックします。新規フォルダの作成ダイアログが表示されます。
- ③ 新規のフォルダ名を指定します。既に存在するフォルダ名を指定すると、新規のデータに置き換わりますのでご注意ください。

資産勘定に属する各科目ごとの残高が新規フォルダに記帳されます。記帳される仕訳は、相手科目無しで摘要に「繰越」と記載されます。補助簿に記載された残高は、補助簿ごとに仕訳されて繰り越されます。





## 次期のフォルダで期首に行なうこと



### 青色申告の場合

繰り越された事業主貸・事業主借・青色申告特別控除前の所得金額を相手科目「元入金」として0にすることで、期首の貸借対照表を調整します。

仕訳の方法の一例を示します。

補助簿があった場合には、補助簿ごとに仕訳入力を行います。

借方側		金額	貸方側	
貸方	 元入金 純資産の部	(反対符号)繰り越された事業主貸の金額	借方	 事業主貸 流動資産
貸方	 元入金 純資産の部	繰り越された事業主借の金額	貸方	 事業主借 流動負債

借方側		金額	貸方側	
貸方			貸方	
純資産の部	元入金	繰り越された青色申告特別 控除前の所得金額	純資産の 部	青色申告特 別控除前の 所得金額



## 法人の場合

期末に当期利益と(期首の)未処分利益が合算され(期末の)未処分利益となり、翌期に繰り越された未処分利益は、通常株式会社では株主総会の承認によって利益処分されます。

例1. 配当金と役員賞与金とを利益処分として捉える場合  
下記の例に沿って説明します。

利益処分案		
	昭和??年??月??日	#株式会社
		(単位千円)
I	当期末処分利益	15,000
II	当期処分額	6,000
	利益準備金	500
	配当金	4,000
	役員賞与金	1,000
	別途積立金	500
III	次期繰越利益	9,000

例のとおり案で処分されたとすると、これらは実際の処分では繰り越された未処分利益を今期中の日常取引として処理をします。

借方側		金額	貸方側	
貸方			貸方	
利益準備金	繰越利益金			当期末処分

借方側		金額	貸方側	
貸方	利益準備金	振替える金額	貸方	純資産の部 利益
貸方	純資産の部		貸方	純資産の部 利益
貸方	当期未処分利益	(反対符号)配当金の額	借方	現金
貸方	純資産の部		借方	流動資産
貸方	当期未処分利益	(反対符号)役員賞与金の額	借方	現金
貸方	純資産の部		借方	流動資産
貸方	別途積立金	振替える金額	貸方	当期未処分利益
貸方	純資産の部		貸方	純資産の部

借方に属する勘定科目で記帳する場合などで金額の符号を反対にしなければならないときもあるので注意してください。

また期首の未処分利益と期末の未処分利益との残高は違ってくこともあるので注意してください。

しかし、これらの処分は総て資産勘定内で行なわれ損益勘定には影響を与えませんので、期首と利益処分案の承認時は、時間的ずれがあっても利益処分は前期末の直後に行なわれたものと考えて良いと思います。

ただし前期末の貸借対照表・損益計算書は利益処分前のものです。

前期――

未処分利益+当期利益=当期未処分利益

繰越――

期首の未処分利益=利益処分株主総会後処分額+当期未処分利益の残高

例2. 配当金と役員賞与金とを販売費一般管理費として捉える場合

利益処分案	
昭和??年??月??日	#株式会社

## 利益処分案

		(単位千円)
I	当期末処分利益	10,000
II	当期処分額	1,000
	利益準備金	500
	別途積立金	500
III	次期繰越利益	9,000

配当金と役員賞与金とは利益処分に関係なく、損益勘定に影響を与えます。

借方側		金額	貸方側	
借方	 配当金 販売費一般管理費	配当金の金額	借方	 現金 流動資産
借方	 役員賞与 販売費一般管理費	役員賞与の金額	借方	 現金 流動資産
貸方	 利益準備金 純資産の部	振替える金額	貸方	 当期末処分利益 純資産の部
貸方	 別途積立金 純資産の部	振替える金額	貸方	 当期末処分利益 純資産の部

---

# 財務分析

「財務分析」の帳票を出力させる為には分析を行なうための勘定科目名を設定しなければなりません。

- 「メインメニュー」「ツール」「財務分析科目の作成…」コマンドを使用します。
- アウトラインビューを使って勘定科目名を編集します。
- アウトラインビューの使い方については、「勘定科目の作成 …」コマンドについての説明を参照してください。

## 財務分析科目の設定の説明

### 現金・預金科目

現金と当座預金、短期の定期預金、即座に換金できる有価証券など。  
流動資産に属する科目の中から選択します。

### 売上債権科目

受取手形、売掛金など売上によって生じた債権科目。  
流動資産に属する科目の中から選択します。

### 買入債権科目

支払手形、買掛金など仕入により発生した最長 1 年以内に支払う債務科目。  
流動負債に属する科目の中から選択します。

### 人件費科目

給与手当、福利厚生費などの人件費関連科目。  
販売費一般管理費に属する科目の中から選択します。

### 利益以外の付加価値額科目



---

付加価値額とは、企業の資源を投じて一定期間経営した結果、新たに生じた価値のことです。

付加価値額=利益+人件費+支払利息+租税公課+減価償却費。

となります。このうち「利益」は最新の税引き前暫定額を自動的に計算して加算するので、その他の項目に該当する勘定科目名を設定します。

人件費科目と重複して設定する科目名がありますが、重複して設定します。

なお、減価償却費は付加価値額に加えないとする理論もあります。

販売費一般管理費及び営業外費用に属する科目の中から選択します。

### 従業員数

一人当たりの生産性の計算基礎となります。場合によっては 0.5 人などの働きに応じた数にする方法もあります。

### 売上原価の内の固定費科目

売上高に関係なく生じる費用を固定費といいます。

固定費=一般管理費+営業外収支の差+「売上原価の内の固定費科目」-「一般管理費の内の変動費科目」

「売上原価の内の固定費科目」があれば設定します。

「一般管理費の内の変動費科目」は別項目で指定された科目名を自動検索し、一般管理費+営業外収支の差は自動計算をします。

売上原価に属する科目の中から選択します。

### 一般管理費の内の変動費科目

売上高に比例して生じる費用を変動費といいます。

変動費=売上原価+「一般管理費の内の変動費科目」-「売上原価の内の固定費科目」

---

「一般管理費の内の変動費科目」があれば設定します。

「売上原価の内の固定費科目」は別項目で指定された科目名を自動検索し、売上原価は自動計算をします。

販売費一般管理費に属する科目の中から選択します。

### 棚卸資産科目

棚卸資産に含める科目。

流動資産に属する科目の中から選択します。

集計はそれぞれ指定した科目グループの中から検索して集計します。

## 財務分析各指標の説明

### 流動性・安全性分析

- $\text{流動比率} = \text{流動資産} \div \text{流動負債}$

企業の短期的支払い能力を表します。100 以下であれば、近い将来資金繰りに問題を生じる可能性があります。

固定資産の売却、短期借入金の長期変更などで流動比率を高める必要があります。

- $\text{現・預金比率} = \text{現・預金} \div \text{流動負債}$

流動比率で問題がなくても、流動資産中の棚卸資産などに不良在庫、回収不能債権などがあると、実質的な支払い能力は落ちます。より厳密に支払い能力を見る指標です。原則的に高いにこしたことはありませんが、余り高すぎるということは、資金が有効利用されていないことになります。利回りの良い有価証券などの購入や固定資産投資に回すと良いでしょう。(1986年頃の話)

- $\text{売上債権対買入債務比率} = \text{売上債権} \div \text{買入債務}$

---

基本的に1対1、つまり100が目安です。100以上のときは債権の現金回収を急ぎ、100 以下のとき、つまり債務超過のときは資金繰りに配慮する必要があります。

- 自己資本比率 = 自己資本 ÷ 総資本

財務の安全性・健全性を見るときには、最終的にこの数値によります。高いほど理想なのですが、現実的に成長過程にある企業は他人資本を調達せざるを得ません。又、この数値を高めることのみ目標にすると、適切な設備投資の機を失うことにもなります。実力相応の比率を保つことが大切でしょう。

- 固定比率 = 固定資産 ÷ 自己資本

長期の支払い能力に関する指標です。設備投資をどれだけ自己資本でまかなっているかを示します。一般的には 60% 以下であることが望ましいといわれています。

### 収益性分析

- 総資本利益率 = 純利益 ÷ 総資本

資本が効果的に使われ利益を生じさせているかを見る指標です。過去の数値や業界の平均値などから一定の基準を設けて目標とします。これも自己資本比率同様に高い程良いのですが、将来の利益を生じさせる設備投資や研究開発費は短期的にこの数値を低くすることもあります。

- 自己資本利益率 = 純利益 ÷ 自己資本

自己資本によって生じた利益という考えで、上記総資本利益率と合わせ収益性の基準にします。

- 資本回転率 = 売上高 ÷ 総資本

---

売上高が総資本の何倍あるか示すことで資本の高率利用を判定します。業種によって大きく異なりますが、企業の成長は大部分売上高によってのみ可能ですので大切な指標です。同業他社との比較をする際の目安となります。

- $\text{売上高純利益率} = \text{純利益} \div \text{売上高}$

利益は原則的に売上によってもたらされます。最終的に企業の財務内容を改善し成長させるのは利益に外なりません。

- $\text{従業員 1 人当りの利益} = \text{純利益} \div \text{従業員数}$

従業員1人当たりどれだけの利益を稼得したかを示す指標です。人材投資の適正性を測ることができます。

### 付加価値分析

- $\text{労働分配率} = \text{人件費} \div \text{付加価値額}$

付加価値額のうち、人件費の比率がどれくらいかを示すものです。一般的には 30～50% 程度です。

- $\text{労働生産性} = \text{付加価値額} \div \text{従業員数}$

付加価値額を従業員数で割り、一人当たりの付加価値額を求めて生産性の基準にし、同業他社との比較をします。また給与額を算出するときの重要なデータとなります。

### 回転期間分析

- $\text{売上債権回転期間} = \text{売上債権} \div \text{売上高}$

売上債権が売上高の何ヶ月分残っているかを示す指標です。短いほど良く、不良債権があれば長くなってしまいます。また、売上が期末直前に集中するような業種のような場合、長くなるので、分析上考慮する必要があります。

- $\text{棚卸資産回転期間} = \text{棚卸資産} \div \text{売上原価}$

---

棚卸資産が売上原価の何ヶ月分残っているかを示す指標です。短いほど良く、滞留在庫があれば長くなってしまいます。

### 損益分岐点分析

- 変動費率 = 変動費 ÷ 売上高

売上高原価という考え方でもできます。

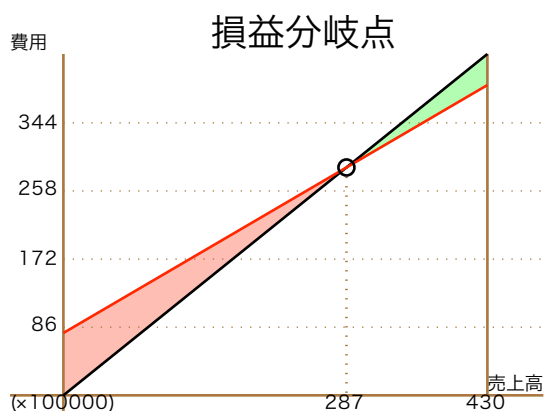
- 損益分岐点売上高 = 固定費 ÷ (1 - 変動費 ÷ 売上高)

企業が利益を生じるための最小限の売上高のことです。

- 経営安全率 = 1 - 損益分岐点売上高 ÷ 売上高

売上高がどの程度損益分岐点を上回っているかの割り合いを示す指標です。

この余裕がある程よい訳ですが、一般的には 20% 程度とされています。



---

## キャッシュフロー

「キャッシュフロー計算書」の帳票を出力させる為には分析を行なうための勘定科目名を設定しなければなりません。

仕訳した総ての資産勘定に属する勘定科目を設定する必要があります。仕訳していない科目を設定しても集計には影響を与えません。

- 「メインメニュー」「ツール」「キャッシュフロー科目の作成…」コマンドを使用します。
- アウトラインビューを使って勘定科目名を編集します。
- アウトラインビューの使い方については、「勘定科目の作成 …」コマンドについての説明を参照してください。
- 設定されていない科目名があると下段のテキストビューに、その科目名が表示されます。その科目名をいずれかのグループの中に設定して下段のテキストビューに何も表示されないようにします。
- ツールバーの中から「テンプレート使用」ボタンをクリックすると、一般的な科目名が設定された現金及び現金同等物とキャッシュフローのグループ分けが作成されます。

### 現金及び現金同等物





キャッシュに該当する科目を、流動資産に属する科目の中から選択します。現金・普通預金・当座預金などです。定期預金でも現金及び現金同等物に該当する場合があります。

### 営業活動によるキャッシュフロー

本業による資金の増減を表すものを集計するので、それを反映できる科目名を選択します。



特別損失の内から当期利益に該当する科目を選択します。

法人の場合で決算処理を次のようにした場合は、当期利益を選択します。

借方側		金額	貸方側	
貸方	 納税充当金 流動負債	当期暫定利益の金額の一部	借方	 納税充当額 特別損失
貸方	 当期末処分利益 純資産の部	当期暫定利益の金額の残り	借方	 特別損失 当期利益

納税充当額は資産勘定に属しませんので選択しません。

青色申告の場合で決算処理を次のようにした場合には当期利益を選択します。

借方側		金額	貸方側	
貸方	 青色申告特別控 純資産の部 除前の所得金額	当期暫定利益の金額	借方	 特別損失 当期利益

また販売費一般管理費の内から減価償却費に該当する科目を選択します。減価償却費は、投資活動によるキャッシュフローの中で、その反対符号の額が減価償却費調整として合算されます。これは固定資産の総額を減価償却前の額に戻すためです。

そのほかに、流動資産に属する科目・流動負債に属する科目の中からと、固定資産の内から引当金に該当する科目・固定負債の内から引当金に該当する科目とを選択します。

キャッシュフロー計算書において、期間中に決算処理がされておらず当期利益に該当する科目の仕訳がされていない場合は当期暫定利益が自動計算されて表示されます。

## 投資活動によるキャッシュフロー

---

設備投資や固定資産の取得による資金の増減を表すものを集計するので、流動資産・固定資産・繰延資産に属する科目の中から選択します。

#### 財務活動によるキャッシュフロー

借入や返済、配当金支払いなどによる資金の増減を表すものを集計するので、流動負債・固定負債・純資産の部に属する科目の中から選択します。

青色申告の場合は、元入金などが該当します。

#### グループ分けしない勘定科目

純資産の部に属する科目の中から利益処分に関する科目を選択します。

例として当期末処分利益、繰越利益準備金、利益準備金などが挙げられます。

青色申告の場合には青色申告特別控除前の所得金額が該当します。

キャッシュフロー計算書においては、当期利益または当期暫定利益の額と反対符号の額と合算して検算をします。もし0(ゼロ)になっていれば集計結果を表示しません。反対に指定されていない勘定科目があったり科目指定が不適切であったりして0(ゼロ)にならない場合は集計結果が表示されます。キャッシュフロー計算書において表示される青色申告特別控除前の所得金額は当期利益の金額・貸借対照表に集計される金額と一致しません。財務活動によるキャッシュフローの中で特別利益調整として不一致の額が表示されます。



---

# 取引データの取り込み

他のデータフォルダーにある取引データを取り込んで、現在作業中の取引データに追加します。

他のデータフォルダーとして指定できるのは、インターネットから http プロトコルでアクセスできるフォルダーと macOS のファイルシステムからアクセスできるフォルダーです。

ftp,smb プロトコルでアクセスできるフォルダーについては、あらかじめ macOS 標準の Finder のメインメニュー「移動」「サーバへ接続 ...」から接続して Finder ウィンドウに表示させて下さい。

- ① メインメニュー「ツール」「取引データの取込 ...」コマンドを実行します。「URL を開く」により「http プロトコルによるデータ取込」、「ファイルを開く」により「ファイルシステムによるデータ取込」、いずれかの方法で取引データを取り込みます。

## 1.HTTP プロトコルによるデータ取込

- ② 「URL を開く」をクリックして、取り込むデータの日付範囲を指定します。
- ③ 「OK」ボタンをクリックして URL を指定します。フォルダー名の拡張子指定とフォルダー指定であることを示すように最後に必ず ".accb/" を付けます。URLの文字列書式については、macOS標準のFinderから「サーバへ接続...」するときの書式と同じです。
- ④ 認証が必要なサイトへアクセスするときは、「ユーザ名」と「パスワード」とを入力します。認証に失敗したときは即座にアクセスを中止します。 /tmp/ImportTransaction.plist という仮のファイルが作られますが、macOSを

---

再起動すれば消滅しますのでいちいち削除する必要はありません。また通常は見えないようになっています。

- ⑤ 「開く」ボタンをクリックします。
- ⑥ 取引データの読み込みが終了すると下段に追加できる取引データが表示されます。
- ⑦ 表示内容を確認して、「追加」をクリックすると表示されている取引データが追加されます。

## 2. ファイルシステムによるデータ取込

- ② 「ファイルを開く」ボタンをクリックして、取り込むデータの日付範囲を指定します。
- ③ 複式簿のデータフォルダーを選択します。ftp サーバーや smb サーバーなどにあるデータフォルダーでも Finder ウィンドウに表示されていれば選択できます。
- ④ 「開く」ボタンをクリックします。
- ⑤ 取引データの読み込みが終了すると下段に追加できる取引データが表示されます。
- ⑥ 表示内容を確認して、「追加」をクリックすると表示されている取引データが追加されます。

この操作によって取引データを追加すると、アンドゥ・リドゥ機能はリセットされます。また「仕訳の編集」をしているときには変更内容がキャンセルされます。

# TIPS

## ページ設定のオプション

各帳票をプリントするときのページ設定を詳細に設定します。

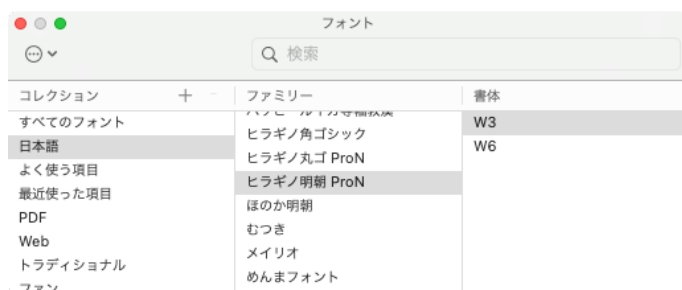
- ① メインメニュー「ファイル」「ページ設定 ...」のダイアログから「設定 :」ポップアップボタンをクリックします。5つの選択肢が表示されます。
- ② 「複式簿」を選択します。マージン・配置・ページ分割を設定するダイアログに切り替わります。
- ③ 4つのテキストフィールドで上下左右のマージンを設定します。
- ④ 4つのテキストフィールドに囲まれた部分のラジオボタンで、イメージを中央または端のどの位置に配置するかを設定します。
- ⑤ 左側のポップアップボタンでページ分割の方法を分割・縮尺・切断の選択肢の中から選択します。
- ⑥ 右下のスイッチにチェックを入れると、フォルダ名・プリント日付・ページ番号が余白にプリントされます。

- ⑦ 「OK」 ボタンをクリックします。他に設定することがあるならば、「設定 :」ポップアップボタンをクリックして、他の設定をします。

macOS の標準的な方法でプリンタを制御しますので macOS がサポートしているプリンタならば、これらの設定が反映されます。

## 帳票のフォント設定

帳票類に適用するフォントを設定します。



- ① 取引データ入力画面をマウスクリックして最前面に表示させます。
- ② メインメニュー「ツール」「フォント」「フォントパネルを表示」を選択します。フォント名設定用のダイアログが表示されます。
- ③ フォントファミリーと書体をマウスで選択してフォントを設定します。

ここで設定したフォント名は総ての帳票類に適用されます。帳票ごとにそれぞれ設定する必要はありません。逆に帳票ごとに異なるフォント名を設定することはできません。

OS のデフォルトデータベースに登録されます。

## アプリケーションのアンインストール

パッケージ名は AccountBook(AccountBook.app) です。このパッケージを削除するだけです。パッケージ名はローカライズされて「複式簿」と表示されることが通常です。

---

アンインストールの際に、~/Library/Preferences/com.SatoAkira.AccountBook.plist と~/Library/Mobile Documents/5WUTY69Q6K~com~SatoAkira~AccountBook/ を削除しても良いです。

## アプリケーションの起動方法

幾通りかの方法があります。

- (a) Finder からこのアプリケーションのアイコンをダブルクリックする。
- (b) このアプリケーションアイコンがドックにある場合はそのアイコンをクリックする。
- (c) Terminal から open コマンドを実行する。open コマンドに与える引数は<このアプリケーションを格納したディレクトリ>/AccountBook.app/Contents/MacOS/AccountBook です。
- (d) 既にデータフォルダーが保存されていた場合には、そのフォルダーアイコンをダブルクリックする。
- (e) 既にデータフォルダーが保存されていた場合には、Terminal から open コマンドを実行する。open コマンドに与える引数はデータフォルダーのパス名です。

## ファイルフォーマットについて

データフォルダの中に造られるファイルは transaction,headings,remarks,analysis,printInfo,sampleJournal,frequency の7個です。

transaction 以外は存在しない場合もあります。transaction が無い場合は総ての取引データが無いと言う状態になります。

取引データを記録しているファイルの名前は transaction です。

transaction ファイルは配列形式のデータ構造を XML フォーマットで記述した utf-8エンコード・テキストファイルです。

---

配列の各要素は辞書形式のデータです。キーと値の組み合わせは下記のとおりです。

Date: 日付 LeftDr\_Cr: 左貸借 LeftMajorDivision: 大分類 LeftClass: グループ LeftAccount: 勘定科目 LeftAux: 補助科目 Money: 金額 RightDr\_Cr: 右貸借 RightMajorDivision: 大分類 RightClass: グループ RightAccount: 勘定科目 RightAux: 補助科目 Remark: 摘要 BookDate: 記帳日時 UserName: 記帳したユーザー名

Apple の PropertyList 形式です。すなわち

```
<?xml version=" 1.0" encoding=" UTF-8" ?>
<!DOCTYPE plist PUBLIC "-//Apple Computer//DTD PLIST 1.0//EN"
"http://www.apple. com/DTDs/PropertyList-1.0.dtd" >
<plist version=" 1.0" >
<array>
<dict>
上で説明したキーと値の組み合わせ。例えば<key>Date</
key><date>2004-12-31T15:00:00Z</date>
</dict>
</array>
</plist>
```

Date と BookDate の Element は <date> で値は ISO-8601 形式でなければなりません。

このアプリケーションからはグリニジ標準時が書き出されます。

Money の Element は <integer> です。

Date,BookDate,Money 以外の Element は <string> です。

勘定科目及び補助科目の名称を定義しているファイルの名前は headings です。

---

headings ファイルは辞書形式のデータ構造を XML フォーマットで記述した utf-8 エンコード・テキストファイルです。

PropertyListEditor.app で headings ファイルを編集するときは、勘定科目グループの数と名称を変更しないでください。

摘要辞書を定義しているファイルの名前は remarks です。

remarks,sampleJournal,frequency ファイルは辞書形式のデータ構造を XML フォーマットで記述した utf-8 エンコード・テキストファイルです。

XML フォーマットのファイルは PropertyListEditor.app や TextEdit.app で直接編集することも可能です。

PropertyListEditor.app は macOS の開発環境に標準添付されているアプリケーションですが、PropertyListEditor.app から直接フォルダ内のファイルにアクセスできない場合があります。その場合には Terminal から cp コマンドを使って他のディレクトリへコピーして編集してください。

## UNIX コマンドから取引データを追加する方法

下記のコマンドで複式簿が使うデータフォルダーへ取引データを追加することができます。

```
% <複式簿を格納したフォルダー名>/AccountBook.app/Contents/MacOS/  
AccountBook append <追加するデータファイルのURL> <複式簿が使う  
データフォルダーのフルパス名> [抽出開始日付] [抽出終了日付]
```

“append” は決まり文句です。

<追加するデータファイルのURL> は複式簿アプリケーションから見た URL です。.accb 拡張子のついたフォルダーではありません。.accb フォルダー内のデータを指定するときは最後のファイル名は transaction となります。

複式簿アプリケーションから読めない URL は指定できません。

追加するデータファイルの書式は transaction ファイルの書式と同じです。

---

<複式僕が使うデータフォルダーのフルパス名> は複式僕アプリケーションから見たローカルのパス名です。

“LeftAux” ,” RightAux” ,” Remark” ,” BookDate” ,” UserName” は省略できます。[抽出開始日付][抽出終了日付] は省略できます。省略すると追加するデータファイルの総てのデータが追加されます。指定すると、追加するデータファイルの中から指定された日付の範囲内にあるデータのみを追加します。指定するときは ISO-8601 形式の文字列で指定します。

正常に終了したとき0を返します。エラーにより追加できなかったとき0以外を返しエラーメッセージを stderr に UTF-8 コードで出力します。正常に追加できなかったときは stderr に何も出力しません。

AppleScript はサポートしません。

## 所得税に関する WEB サイトへのリンク

### 所得税の確定申告

このアプリケーションは税額計算のサポートをしません。

国税庁 (National Tax Agency) の「所得税の確定申告作成コーナー」<<https://www.keisan.nta.go.jp/kyoutu/ky/sm/top#bsctrl>> などを利用すると、簡単に正確な申告書を作成できます。

### 帳簿書類の電子データによる保存制度



- 
- 電子計算機を使用して作成する国税関係帳簿書類の保存方法等の特例に関する法律（略称「電子帳簿保存法」）<<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=410AC0000000025>>
  - 電子計算機を使用して作成する国税関係帳簿書類の保存方法等の特例に関する法律施行令<[https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=503CO0000000128\\_20220101\\_000000000000000](https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=503CO0000000128_20220101_000000000000000)>
  - 電子計算機を使用して作成する国税関係帳簿書類の保存方法等の特例に関する法律施行規則 <<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=410M50000040043>>
  - 電子帳簿保存法関係法解釈に関する情報<<https://www.nta.go.jp/law/joho-zeikaishaku/sonota/jirei/index.htm>>
  - 電子帳簿保存法関係法令・告示・取扱通達・取扱通達解説集<<https://www.nta.go.jp/law/joho-zeikaishaku/sonota/jirei/03.htm>>

## 作者への問い合わせ先

佐藤昭/SatoAkira<[sato-akira@hi-ho.ne.jp](mailto:sato-akira@hi-ho.ne.jp)>